

# シンフォニー

Symphony

北本市男女共同参画情報紙 第19号

主な内容

特集

男女共同参画アンケート

男のシゴト 女のシゴト

～男女の役割分担 理想と現実～

- DV (ドメスティック・バイオレンス) って何？
- 男女きらきら北本いっしょにプログラム登録団体紹介「クッキングクラブ・シェフ」ー 男子厨房に入るべしー

忙しいけど…

## ちょっと振り返って 自分を見つめ直そう

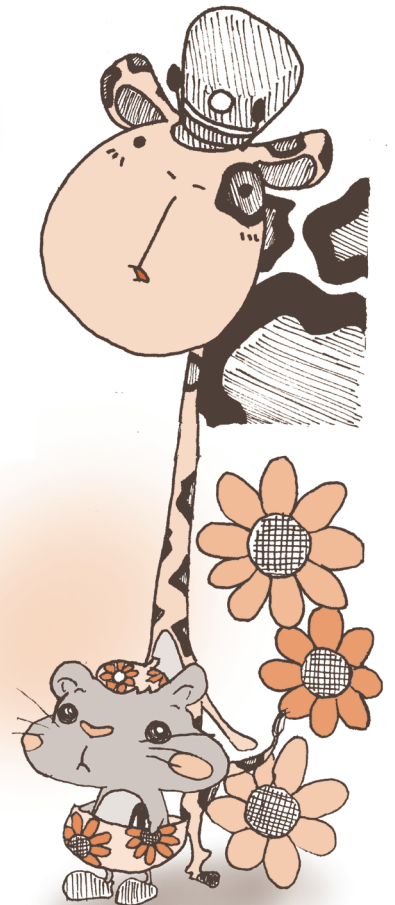
協力すれば  
みんなが自分の  
時間をもてるね

家事は  
8割以上の家で  
主に女性が  
やっているよ

お父さんも  
育休取って  
ほしいなあ



北本トマト  
キャラクター  
「とまちゃん」



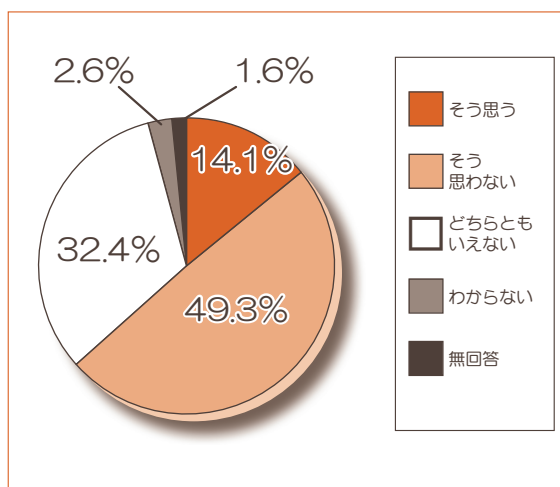
# 男のシゴト 女のシゴト ～男女の役割分担 理想と現実～

あなたは男女共同参画に対してどんなイメージを持っていますか？市民の皆さんはどう思っているのか、市民アンケートの結果から一部をご紹介します。

## ○「男は仕事 女は家庭」賛成それとも反対？

外で働いてお金を稼ぐのは男性、家事や子育てをするのは女性という考え方について聞いたところ、「そう思う」が14.1%、「そう思わない」が49.3%、「どちらともいえない」が32.4%となっており、約半数が反対と答えています。

「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」と性別だけで決められてしまって、自分がやりたいことができなかったり、苦手なことをしなければならなかったりしたらどう感じるでしょうか。個性、能力に目を向けてみることも大切です。

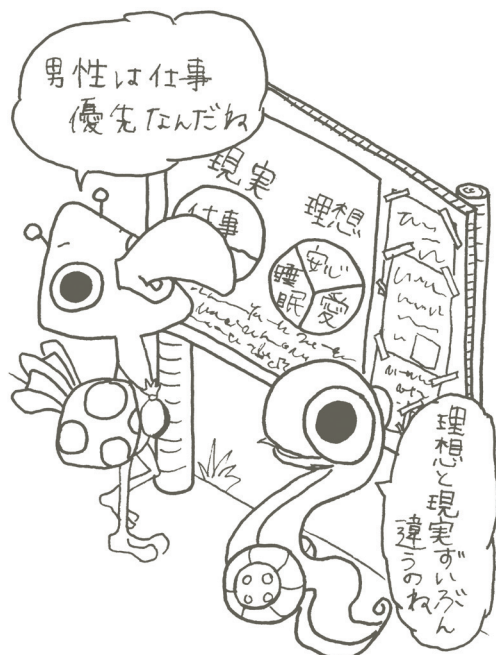
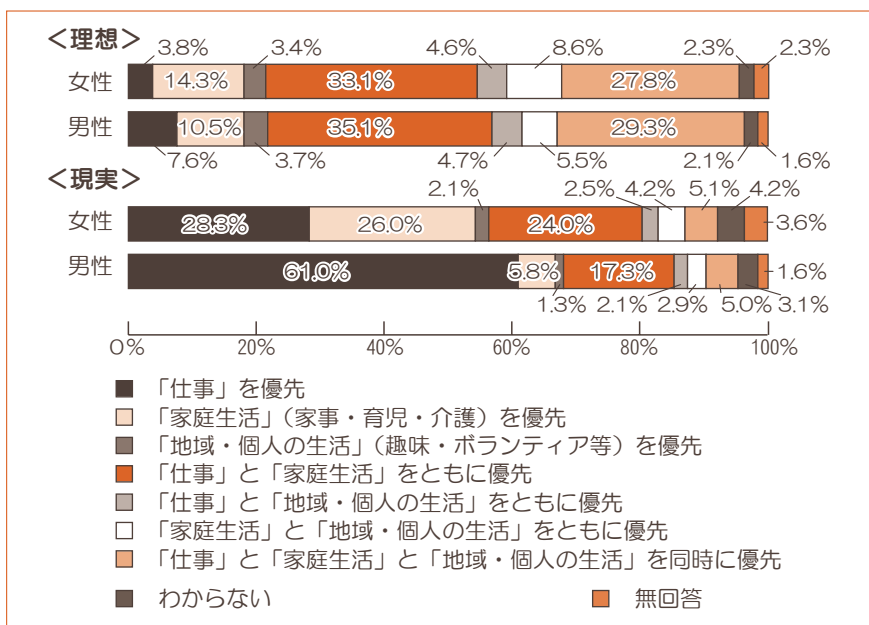


## ○「ワーク・ライフ・バランス」あなたの理想は？

仕事と充実した家庭生活、地域生活、自己啓発などについて、自ら希望するバランスで展開できることを、ワーク・ライフ・バランスといいます。

ワーク・ライフ・バランスの理想と現実を聞いたところ、希望では「仕事と家庭生活をともに優先」が男女とも高くなっていますが、現実では「仕事を優先」が高くなっています。

私たちは、仕事を通して暮らしを支え、生きがいや喜びを見出すことができます。また、家庭生活や育児、地域での付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないものであり、その充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。あなたにとって、最適なバランスは何ですか？



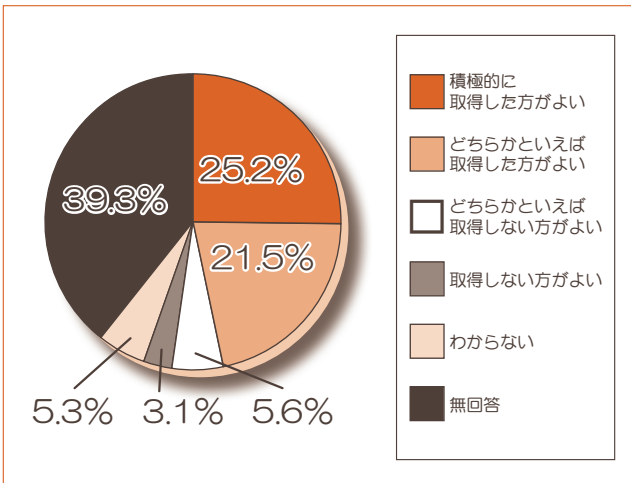


### 調査の概要

- ◆ 調査対象 市内在住の 18 歳以上の 2,000 人
- ◆ 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- ◆ 調査方法 郵送による配布および回収
- ◆ 調査期間 平成 23 年 10 月 3 日～ 28 日
- ◆ 回収結果 有効回収数 935 人 回収率 46.8%

## ○ 男性が育児休業をとることに ついてどう思う？

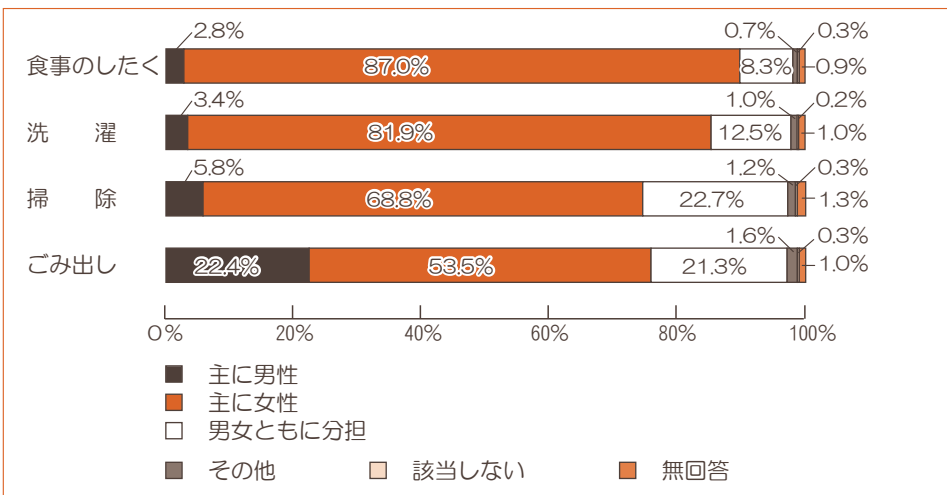
子育てに積極的な男性が増え、イクメンが注目を集めています。男性が育児休業を取ることにどう思うか聞いたところ、取得した方がよいという人が、46.7%と、4割を超える人が、肯定的な回答をしています。しかし、実際に取った人は2.6%(2011年雇用均等基本調査)と、いざ育児休業となると、なかなか取れないことがわかります。



## ○ 「家事分担 担当しているのはどっち？」

家庭での家事分担、どうしていますか。家事・育児・介護を主にどなたが担当しているか聞いたところ、多くの項目で「主に女性が行っている」の割合が高くなっています。男性が行っている割合が最も高かったのは、唯一「ごみ出し」。22.4%の人が、主に男性がごみ出しをしていると答えています。

家庭は、生活の基本です。その家庭を支え、家族が気持ちよくすごせるようにするためには、家事は欠かせないものです。誰かに負担がかかるのではなく、みんなで協力すれば、楽しく家事ができるかもしれません。



# DV(ドメスティック・バイオレンス)って何？

## 配偶者からの暴力をなくそう

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、夫婦や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力のことをいいます。

### 被害者の多くは女性です。

男性が女性に対して暴力を振るうことの根底には「女性は男性に従うもの」という考え方があります。また、パートナーを自分の所有物とみなす支配者意識がひそんでいます。加害者は、暴力を使って、被害者をコントロールしようとします。

### 暴力の形はさまざまです。

「身体的暴力」のほかに「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」「社会的暴力」「子どもを巻き込んだ暴力」があります。多くの場合、いくつかの暴力が重なって起こります。

### 暴力はくり返されます。

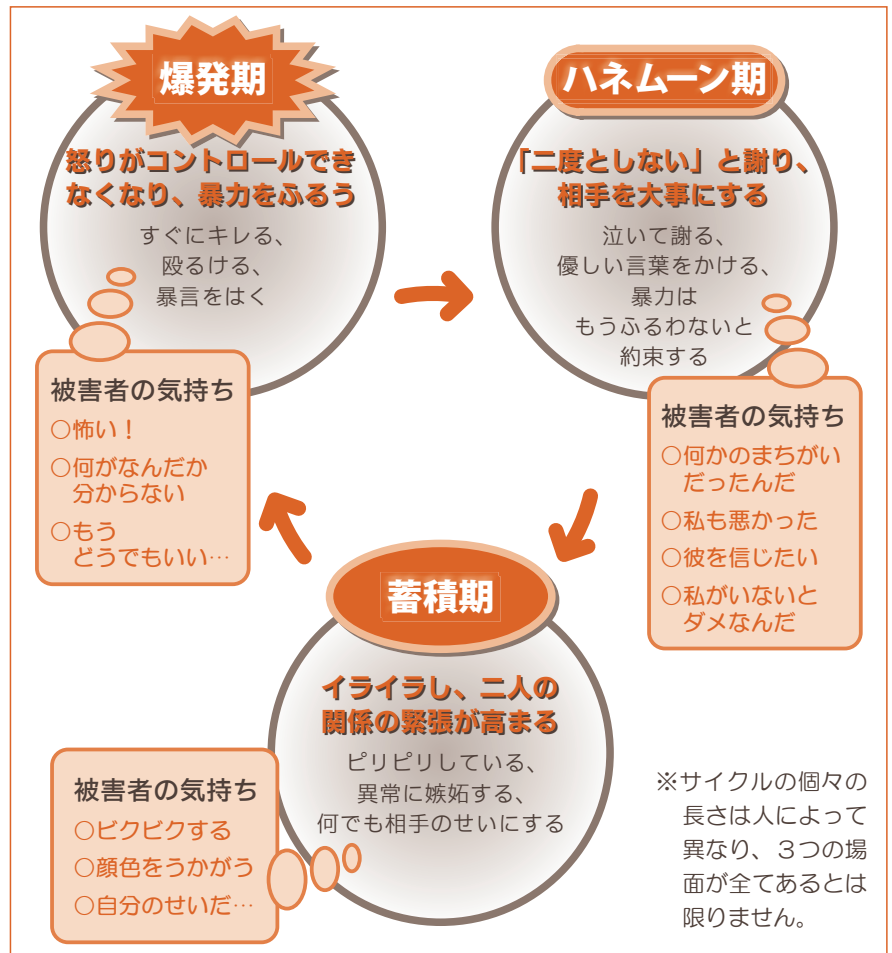
多くの加害者はいつも暴力をふるっているわけではありません。被害者は「いつもはやさしい人だから」「自分さえがまんすれば」と思ってしまいます。

しかし、暴力は体だけでなく心にも深刻なダメージを与えています。また、子どもがDVを目撃することは児童虐待にあたるとされています。暴力は決して許されるものではありません。まずは一人で悩まず相談してみましょう。

## DV相談窓口

相談窓口	電話番号	受付時間など
市役所女性相談	048-591-1111	予約制
配偶者暴力相談支援センター(埼玉県婦人相談センター)	048-863-6060	月曜～土曜 9:30～20:30 日曜・祝日 9:30～17:00
With You さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)	048-600-3800	月曜～土曜 10:00～20:30 (祝日・第3木曜日は除く)
鴻巣警察署	048-543-0110	

\*受付時間など変更となる場合がありますので、各相談窓口にお問い合わせください。



### デートDVは暴力です。

恋愛関係にある2人の間で起こる暴力を「デートDV」といいます。平成23年の内閣府の調査では、10代20代の7人に1人がデートDVを受けたことがあると答えています。

相手が怒るのは、自分が悪いからだと思っていませんか？

束縛されるのは、愛されている証拠だと思っていませんか？

相手を怒らせないように行動していませんか？  
やさしい時もあるし、いつか変わるのではないかと考えていませんか？

これらを恋愛だと思い込むことによって、デートDVは問題を深刻化させています。

これってDVかな？ と思ったら、ひとりで悩まないで相談しましょう。

# 男子厨房に入るべし

クッキングクラブ・シェフ

クッキングクラブ・シェフは今年で発足20周年を迎えます。

当会は、平成5年に北本市が中丸公民館で開催した「男性料理教室」終了日に、市の職員の方から「講習会終了後、その講習会を母体にサークルを作っている例が多いので、どうですか?」と言われ、それをきっかけに「男子厨房に入るべし」との考えを持つ方々を中心として発足しました。さらに、会員の家族の事情も発足のきっかけとなったようでした。

例えば、(1)配偶者(妻)が長期の入院をして自分が料理を作らないと自分や家族の食事に支障をきたす。(2)自分で作った料理を家族で食べて家族の団欒<sup>だんらん</sup>を図りたい等の事情があるなどです。

現在の会員数は18名ですが、20年の間には増減があり、平均すると15名前後の人数になっています。

本会の開催は毎月1回で、原則として第1土曜日の午前中(9時から12時まで)としています。

会員は、それぞれ自宅や地域の場で、料理教室で習い覚えた知識や技を発揮して活躍しています。

料理教室の実習では、調理方法で色々な間違い、手違い(食材の切り方、調味料の取り違い等)が生じて、それらの誤りが笑いのもととなって良好なコミュニケーションを作り出しています。

「男子厨房に入るべし」との意気込みをお持ちの方は、ぜひ当会へご入会ください。

会長 齊藤公一



レシピを参考に手際よく調理をしていきます。家庭や知人に料理をふるまうのを楽しみにがんばります。



材料のあつかい方、盛りつけなどが目の前で見られるので、わかりやすく、すぐにでもできるようになります。

「男女きらきら  
北本いっしょに  
プログラム」に  
参加しませんか?

市では、「男女」が「きらきら」と輝ける北本を、市民のみなさん、事業所のみなさんと「いっしょ」に作っていきたく、「男女きらきらいっしょにプログラム(北本市男女共同参画推進者登録制度)」を推進しています。団体でも、個人でも登録できますので、みなさんの登録をお待ちしています。

問合せ 協働推進課人権推進・男女共同参画担当(直通) 048-594-5507



# 女性相談(カウンセリング)を開設しています

日常生活の中で、悩んでしまい、なかなか解決の方向が見えなくなっていることはありませんか。

自分では解決したと思っているのに、何だか心がすっきりしないことはありませんか。

今は、インターネットやテレビなどで、さまざまな情報を得ることができます。しかし、情報があるだけでは、自分がどうしていきたいのか決めることは難しく、不安や悩みは増すばかりではないでしょうか。

女性相談では、悩んでいる方の気持ちに寄り添い、一緒に解決方法を考えていきます。

誰かに話してみることで、初めて自分の気持ちに気づくこともあり、そこから解決の糸口が見つかるかもしれません。

今自分が、どうしたいのか。

自分にできることは何なのか。

一人で悩まずに、一緒に考えていきませんか。

## 女性相談(予約制)

- 相談日 第1・3水曜日 第2月曜日
- ところ 市役所相談室
- 予約・問合せ 協働推進課人権推進・男女共同参画担当 TEL 048-591-1111 内線 2229

## 夫との関係…

夫が、家事や育児に協力してくれない。夫から「役立たず」と言われてつらい。

## 職場の悩み

上司や同僚と、どのように接してよいかわからない。

## 自分自身について

ついネガティブな考え方をしてしまう。

## 子どもの問題

子どもとうまくコミュニケーションがとれずに困っている。

## 親、親族のこと

母親との関係がぎくしゃくし、うまく会話ができない。

## からだのこと

親には言いづらい。病院に行こうか迷っている。

## 彼のこと…

彼が話を聞いてくれない。彼の言うとおりにしないとキル。

## 編集後記

☆今回のシンフォニーでは、どのような特集を組むことで市民の皆様へ情報紙を届けることができるのか、編集協力員で考えてきた結果、とても良い情報紙ができ、お届けすることができました。高校生の助けもあり、楽しく若者も手に取ってもらえるものに仕上がりましたので、ご家族で読んでいただきたいと思います。(木村利江子)

☆普段の生活の中で、なかなかじっく

りと考えることのない「男女共同参画」、改めて考える良い機会になりました。日々の生活に追われている毎日ですが、自分のライフスタイルを少し見直し、元気に生活できれば良いなと感じました。今回参加させていただき、ありがとうございました。(飯嶋 瞳子)

☆私の子育て時代は、やはり夫は仕事のみ、私は育児に追われて一日が終わ

る感じでした。その他の家事もほとんど私がやってきました。そして月日は流れ、年を取りましたが、やはり夫は家の事ができません。今は私が健康だから良いけれど、この先のことを考えると、主婦から主夫になってくれることを願います。毎日のことだから、やって当たり前ではなく、お互い感謝の言葉を口に出して言うことが大事だと思います。(関 恵子)

## イラストでご協力いただいた高校生からひとこと

表紙と2・3ページのマンガとイラストを描いていただいた、埼玉県立吹上秋桜高等学校2年生の小山史晃さんに感想をいただきました。

北本に生まれ育って17年がたちますが、小さなことでも北本のために役立てたことが幸せです。絵を描いている時が、ものすごく楽しかったです。良い機会をありがとうございました。

「シンフォニー」とは、交響曲のこと。いろいろな楽器が響き合って一つの曲を奏できるように、男女が力を出し合せて、調和の取れた男女共同参画社会を創造できるようにと名づけられたものです。



北本市は地球環境に配慮した取り組みを進めています。

企画・編集 男女共同参画情報紙「シンフォニー」編集協力員  
発行 北本市総合政策部協働推進課  
〒364-8633 北本市本町1丁目111番地 TEL 048-591-1111 (代表)

シンフォニー  
第19号2013年3月発行